

二十一世紀へ向けて二四八人のメッセージ

川柳 贈る言葉

Senryû Okuru-Kotoba

今川 乱魚・編

Imagawa Rangyo



葉文館出版

読者のご意見、ご感想は下記住所の今川乱魚宛にお願いします。

二十一世紀へ向けて二四八人のメッセージ

川柳 贈る言葉

平成9年10月10日 印刷

平成9年10月18日 発行

編 者 —— 今川乱魚・東葛川柳会

〒277 千葉県柏市逆井1167-4

TEL・FAX 0471-72-1590

(振替 00100-1-364125 東葛川柳会)

発行人 —— 齊 藤 俊 輔

発行所 —— 葉文館出版株式会社

本 社 大阪市浪速区恵美須西2-9-15 〒556

TEL 06-634-5548(代) FAX 06-636-3832 振替00950-5-95311

東京支社 東京都港区芝大門1-16-9 神明ビル2F 〒105

TEL 03-3578-8608 FAX 03-3578-8607

印刷所 —— ㈱国際印刷出版研究所

定価(本体1,905円+税)／送料340円

©Tokatsu-Senryu-kai Printed in Japan 1997

ISBN4-916067-70-3

二十一世紀へ向けて二四八人のメッセージ

川柳 贈る言葉

Senryû Okuru-Kotoba



葉文館出版

川柳『贈る言葉』の刊行にあたって

一九九七年十月、この二十世紀も残り三年、いよいよ世紀末である。東葛川柳会では今年創立十周年を迎えるに当たり、つぎの二十一世紀に向けるメッセージとして川柳『贈る言葉』を広く募集した。

二四八人の川柳人がこれに応えてくれた。人は誰でも、誰かに贈りたい言葉を心の底にもっている。それを川柳の形で一句ずつ発表して頂こう、というのが募集の趣旨である。

万葉の昔から日本には歌を贈る風習があつた。贈る相手は神様であつたり、恋人や

友人であつたり、いろいろであるが、ふつうの手紙に氣持を書くよりも、韻律をもつ詩の形で贈るほうが心を通じるといふことはよく知られていた。歌を書いた短冊を笹に下げて願ひ事をする七夕の行事も古くから広く行われている。この川柳『贈る言葉』はいわばその現代版であり、川柳版である。二十一世紀への言霊（ことだま）になるかも知れない。

川柳のほんとうのよさは、作者の本音が詠まれていることにある。川柳は絵空事ではない。言葉遊びでもない。心の叫びであることを多くの川柳人は知っている。本音だから面白いし、本音だから悲しいのである。この句集に収められた二四八人の本音はきつと読者の共感を呼ぶに違いない。「この氣持わかるな」「わたしもこのことが言いたかったんだ」——一句でも二句でもそういう句に出会って頂ければ、この本を出した目的は達せられる。

また、この本には川柳作品だけでなく、この十年間になされた著名な先生方の講演記録が収められている。すべて東葛川柳会の毎年の大会席上で催された講演のエッセ

ンスである。川柳をテーマとするものや、人情や人生を学ぶためのテーマも含まれている。これらは川柳についてよく知らない人にも参考になることであろう。掲載をご快諾頂いたばかりかテープ起こし原稿のチェックまでして下さった講師の先生方に改めて深くお礼を申し上げます。

東葛川柳会がたんに川柳を作るだけの場ではなく、教養を深めたり、社会的な情報の交換もできる楽しい会であることをこの機会に一言PRさせて頂き、発刊の言葉とする。

平成九年十月十八日

東葛川柳会代表

今川 乱魚

二十一世紀へ向けて二四八人のメッセージ

川柳 贈る言葉

第二部 川柳 贈る言葉

近作五句

85

目次

川柳『贈る言葉』の刊行にあたって

3

第一部 贈る一句

二四八人の川柳 贈る一句

15

地球・国家・社会編

個人編

家族編

バラエティー編(雑)

17

贈る言葉……か行

126

講演記録

野茂と日米野球文化比較

150

女が変わり、法が変わって、男は変われるか

池井 優
渥美 雅子

154

いつしか真顔になって

川柳『贈る言葉』編集室から

今川 乱魚

74

贈る言葉……さ行

162

贈る言葉……あ行(作者雅号五十音順)

86

講演記録(要旨)

新聞川柳の選者として

零からの旅立ち

神田 忙人
北野 岸柳

121 116

講演記録

人生と勝負

川柳と江戸庶民文化

佐瀬 勇次
渡邊信一郎

172 176

贈る言葉……た行

184

講演記録

短歌に詠まれる女ごころ

川村ハツエ

196

贈る言葉……な・は行

206

講演記録

英語と川柳

川柳……母を詠む

速川 和男
西来 みわ

236 240

贈る言葉……ま・や・ら・わ行

246

講演記録

川柳の原点を探って

歴代川柳とその時代

続・歴代川柳とその時代

現代川柳の原点を探る

現代川柳への展開

尾藤 三柳
脇屋 川柳
脇屋 川柳
尾藤 三柳
斎藤 大雄

266 269 275 280 284

付録

今川乱魚ユーモア賞について

東葛川柳会十年誌

あとがき

山本 義明

291 295 302

表紙漫画 西田 淑子（にしだ としこ）

日本漫画家協会会員 読売国際漫画大会大賞一九九五年選考委員特別賞。同一九九六年、九七年優秀賞受賞。

川柳贈る言葉

作者雅号五十音順

あ

青柳	おぐり	86
秋山	博	86
秋山	勝	87
穴澤	良子	87
新井	季代子	88
荒卷	滋	88
荒蒔	義典	89
安藤	きよ美	89
安藤	紀楽	90
飯野	文明	90
井川	幹司	91
五十嵐	修	91
池田	信一郎	92
石井	ひさ春	92
石倉	瑩美	93
石塚	とし	93
石戸	秀人	94
伊豆丸	竹仙	94

泉	比呂史	95
伊藤	春恵	95
伊藤	夢々	96
稲葉	サカエ	96
井ノ口	牛歩	97
伊庭	獅子尾	97
今川	乱魚	98
今成	貞雄	98
岩田	康子	99
植木	紀子	99
上山	由美子	100
鶴沢	滋子	100
碓氷	祥昭	101
薄木	博夫	101
内海	あきの	102
梅本	淳坊	102
江崎	紫峰	103
江畑	哲男	103
海老原	澄子	104
大木	俊秀	104
大倉	なつ子	105
大島	脩平	105
太田	昭雄	106

か

太田	紀伊子	106
太田	剛道	107
太田	ヒロ子	107
太田	扶美代	108
大竹	忠義	108
大戸	和興	109
大西	豊子	109
大村	ただし	110
おか	の 蓉子	110
岡村	庖華	111
岡本	かくら	111
小川	吞空	112
荻原	柳絮	112
奥井	弥都子	113
奥村	豊太郎	113
小口	慶一	114
押野	三保	114
小原	正司	115
笠原	千造	126
風間	花盈	126
梶川	達也	127
梶原	三夢	127
加藤	喜久子	128

木村	紀科	木咲	菊池	菅野	神田	河村	川村	川村	川邑	川俣	唐沢	加茂	神山	上村	神野	神長	上鈴木	金子	金森	上遠野	加藤	加藤
操	有杞	胡桃	青乱	和子	明子	露村女	安宏	英夫	光昭	喜猿	春樹	如水	勢陵	健司	岳風	幸枝	春枝	冬泉坊	美代子	長政	友三郎	権悟
139	139	138	138	137	137	136	136	135	135	134	134	133	133	132	132	131	131	130	130	129	129	128

さ

佐野	笹島	坂牧	酒井	後藤	近藤	小林	小林	小林	小久保	古賀	河野	小池	小池	桑田	倉林	倉根	熊坂	熊谷	熊谷	窪田	窪田	国井
青柳子	一江	春妙	笑虎	育弘	秀方	光夫	三沙子	和子	虎夫	絹子	なかば	知佐子	好	繁子	芳子	六國	久枝	昌具	富貴子	浩子	和子	透
163	163	162	162	149	148	148	147	147	146	146	145	145	144	144	143	143	142	142	141	141	140	140

た

椎名	椎野	信浜	柴田	島田	島村	白井	白濱	進藤	菅井	杉本	鈴木	住江	住田	関口	瀬崎	平柳	高田	高野	高野	たかもり	竹内	竹下
七石	茂	博	午朗	小吉	嘉一	花戦	真砂子	まつ子	京子	勇太郎	楽子	直子	英比古	彩夏	卓	柳也	礼子	太郎	富子	みち	ヤス子	圭子
164	164	165	165	166	166	167	167	168	168	169	169	170	170	171	171	184	184	185	185	186	186	187

な

中村	中村	中村	中原	中杉	中島	中島	中澤	豊田	戸辺	徳重	手塚	堤	土屋	辻	檀上	田内	田中	田中	立原	田制	田実	竹本
安代	久恵	英福	操雪	まち子	啓喜	久光	巖	豊仙	源五郎	憲一	良一	丁玄坊	みつ	やよい	日青人	文子	みどり	南桑	早苗	園彦	良子	宏平
.....																						
209	209	208	208	207	207	206	206	194	194	193	193	192	192	191	191	190	190	189	189	188	188	187

は

速川	速川	濱田	濱田	濱川	長谷川	橋本	橋本	箱木	芳賀	野本	野見山	野口	野木	西来	西村	西方	成島	滑川	長野	長尾	永井	仲谷
祐永	美竹	良知	一子	ひでこ	冬樹	ひとし	薫	紅法師	七枝	君子	夢三	寿	尋子	みわ	喜美江	誠英智	静枝	垂穂	清子	美和	真治	時子
.....																						
221	220	220	219	219	218	218	217	217	216	216	215	215	214	214	213	213	212	212	211	211	210	210

古田	古川	船本	船橋	藤原	藤田	藤崎	藤	伏見	広津	蛭町	平野	平田	日野	菱田	久野	久野	疋田	馬場	馬場	原野	原田	林
リウ	ときを	庸子	豊	節臣	峰石	一芳	あかね	清流	輝雄	茂美路	こず枝	百合子	真砂	利郷	紀子	孝	利子	美昭	長利	正行	順子	万里子
.....																						
232	232	231	231	230	230	229	229	228	228	227	227	226	226	225	225	224	224	223	223	222	222	221

ま

宮脇	宮村	宮川	宮内	水井	真弓	松波	松下	松岡	松尾	松尾	松尾	松尾	松井	松井	町田	町田	本田	甫出	星野	星泡柳	保木	別所
信子	ちよ路	ハルエ	可静	玲子	明子	酔保	雲竜	満三	マサノ	タケコ	仙影	純子	まさ子	文子	幸久	あみ	純歩	かおる	かよ	柳	寿	和子
254	253	253	252	252	251	251	250	250	249	249	248	248	247	247	246	246	235	235	234	234	233	233

わ

和田	渡辺	若月	米島	吉村	吉田	吉田	吉實	吉岡	横松	由良	山本	山根	山田	山田	山路	山下	山下	山崎	山口	森中	森	守
秀雄	とみ子	葉	暁子	木星	わたる	朝子	井児	れん子	愛子	晏子	義明	ふねお	真理子	秋良	節子	省子	國男	鮮紅	幸	惠美子	富士三郎	克昭
265	265	264	264	263	263	262	262	261	261	260	260	259	259	258	258	257	257	256	256	255	255	254

や

斎藤	脇屋	尾藤	西来	速川	川村	渡邊	佐瀬	渥美	池井	北野	神田	講演講師肩書き(掲載順、敬称略)
大雄	川柳	三柳	みわ	和男	ハツ工	信一郎	勇次	雅子	優	岸柳	忙人	
日本川柳協会理事	京川柳会主宰	第十五世川柳	川柳公論主宰・日本	川柳研究社幹事	立正大学教授	古川柳研究者	故人。日本将棋連盟	八段	故人。日本将棋連盟	慶應義塾大学教授	川柳洋燈主宰	故人。朝日せんりゅ

凡 例

句の巧拙には関わりなく、提出されたものをそのまま掲載した。

① 第一部の二四八人の川柳『贈る一句』は全体を四分類に大別し、さらにその中で宛先の似ているものを集め小見出しをつけた。また、この一句は作者別の頁にも再録した。

② 第二部の『贈る言葉』は各頁とも次の順で掲載した。

雅号、本名（カッコ内）、誕生日、性別、住所、近作五句、贈る一句。誕生日を書きたくない人の意思は尊重した。

③ 作者の並べ方は、原則として雅号の五十音順とした。

④ 作者五十音順のあ行、か行などの切れ目には記念講演の記録（要旨）を挿入した。これらの講演は東葛川柳会の記念大会などでなされたもので、それぞれの末尾に開催日を記した。川柳の歴史発展にかかわる内容の五編は、理解しやすいように最後にまとめた。紙数の関係で割愛した講演記録も少なからずあることを付記しておきたい。

⑤ 付録は東葛川柳会十年間の活動記録である。会の内部の記録ではあるが、川柳の会がどのようなことをするのかという一般の関心の向きにと、あえて収録した。

贈
る
言
葉

二十一世紀へ向けて二四八人のメッセージ

川柳贈る一句